

〈実践報告〉

日本人の社会行動研究—思考・行動の 文化様式

——欧米の留学生に対する日本研究講座——

小 松 照 幸

A Case Report on the Study of Cultural Modes of the Japanese: Social Ways of Thinking and Behavior

KOMATSU Teruyuki

This paper is a case report for the author's class on Japanese social behavior: Japanese ways of thinking and behavior. The course is offered primarily to international students from western countries as a Japanese studies program at the Institute for Japanese Studies at Nagoya Gakuin University. This paper covers the outline of my course from (1) course planning: students' attribution, research method, texts (2) references (3) class management (4) conclusion, and (5) appendix-syllabus. The important issues are how to program an effective course work, how to identify students' needs and academic background, effective research method, selection of effective texts and references, and effective program management. Since this area of study requires an interdisciplinary approach, the author sets frameworks for effective teaching and learning. The first framework for research includes four factors, i.e. understanding the self, understanding others, understanding one's own culture and society, and learning the foreign culture and society. The second framework is the traditional ideas, i.e. up and down relations, *tatemae* and *honne*, give and receive relations, front versus rear, and public versus private. The third framework is on the social attribution, i.e., gender, age and social position. These frameworks interact with each other to create cul-

tural enforcements which shape Japanese social behaviors.

キーワード: 日本人の社会行動: 思考と行動の文化様式、日本人の社会行動: 英語による講義方法、日本研究講座: 社会人類学的アプローチ

I. はじめに

本論の目的は、筆者が1988年から現在まで14年間担当してきた講座「現代日本社会: 日本人の思考・行動の文化様式」の内容を詳細に報告すると同時に、特に欧米からの留学生に対する(学部レベルでの英語による)学習テーマの設定方法、教育方法について明らかにし、今後の効果的な学習・教育方法に関わる課題にアプローチしようとするものである。

1964年に創立された名古屋学院大学は、1967年にアメリカのアラスカ・メソジスト大学(現アラスカ・パシフィック大学)との間で学生の交換留学を開始し、以来、今日まで、35年間留学生の交流を実施してきた。本学からの海外派遣留学生は、アメリカの提携校を中心として1年間の長期留学、夏・冬の短期留学、半年間の中期留学生を含めて、現在100名前後である。1988年からは国際交流の規模の拡大に伴ない、本格的な日本研究コースを「留学生別科 (Institute for Japanese Studies)」組織として設立した。留学生別科では、30数名の留学生を受け入れ、日本語と日本研究の分野で教育を実施している。留学生は大多数がアメリカからの交換留学生であるが、他にもオーストラリア、カナダ、ドイツ、中国などからの留学生も含まれている。

II. 担当講座「現代日本社会: 日本人の社会行動」の授業計画

筆者が担当してきた講座は、日本研究コースの中の日本事情科目として開講され、授業は全て英語によって実施してきた。この講座の狙いは、現代日本社会の構造特性と日本人の社会行動と思考様式を考えるとところにあるが、とくに社会システムと人間行動との関わりを伝統的な社会心理、社会通念、社会習慣(思考と行動の文化様式)の解明を通して学習するところに重点が置かれている。僅か1学期間という限られた時間内で、多様な文

化背景をもつ留学生に対してこのように大きな課題について教育することは容易ではないし、留学生にとっても、この課題に精通することは大変難しいことと思われる。しかしながら、日本文化の底流にある文化的伝統と思考・行動の変化の側面をより深く理解することは可能であるし、そこに日本研究の重要性があると考えられる。

1. 学習者(留学生)の属性について

講座設定において重要なポイントは、誰に何をどの程度のレベルで教授するかということである。授業で学習効果を上げる条件は、まず受講者の教育的背景と学習上の期待・要求を知ること、そして講義内容が受講者に理解され、満足されるものであることが重要である。そこでまず本学の留学生の背景を概観すると、次の通りである。

- (1) 大多数はアメリカ(英語圏)からの学部生であり、母国での日本語学習期間は1年以上、成績はB程度以上である。
- (2) 彼らの留学期間は半年あるいは1年であり、留学目的はおおむね日本語能力の習得に重点が置かれている。
- (3) 日本文化や社会についての関心は多様であるが、出身大学での日本事情・日本研究の学習経験については、特に高度で専門的な研究を行ってはいない。大多数の者は日本語を専攻とし、日本の経済・経営や歴史の講座を2-3取得した者である。
- (4) 日本研究に関して学習経験は浅いが、日本社会や日本文化に対しては概ね強い関心をもっている。
- (5) 日本語能力については、個人差が見られるが、高校時代に交換留学生で来日した者や日本で1-3年間程度滞在した者は、日本語によるコミュニケーション能力に優れ、かつ日本社会について多面的で深い理解を持つ者もいる。それらの優秀な学生を除いて、留学生の日本語能力は初級レベルの者が多く、日本語による文献と資料の調査能力は期待できない。

受講生の学習期間はほとんどが1学期間だけの場合が多く、授業回数も

12-13回で完結する。

以上のような留学生全般の学習背景を考慮して、授業の始めには次のような質問用紙を配布し調査している。

- (1) 出身大学: 学年、専攻分野(主専攻・副専攻)、日本研究の関連取得科目
- (2) 日本語能力: 母校での学習期間、現在のレベル・能力
- (3) 受講科目への期待: 日本文化・社会への具体的な興味・関心事、またこの授業に対する期待度
- (4) 多文化的視点: これまで訪問した国、滞在期間と文化的学習内容

2. 講座の研究方法

そもそも、1億2000万人に上る日本人老若男女の社会行動を的確かつ客観的に把握し、かつそこに共通する文化的価値観を科学的に理解することはどの程度可能であろうか。日本社会のみならず、過去から現代そして未来へと変化する人間世界、現代社会、人の心や社会の変化をどのようにして分析すれば、マクロ的に理解できるのであろう。そこで、まず考慮しなければならないことは次の要件である。

- (a) どのような視点で、当該テーマを学習すれば良いのか(学問的研究方法と視点)
- (b) どのような学習・教育資料と参考文献があるのか(教育方法と教材)

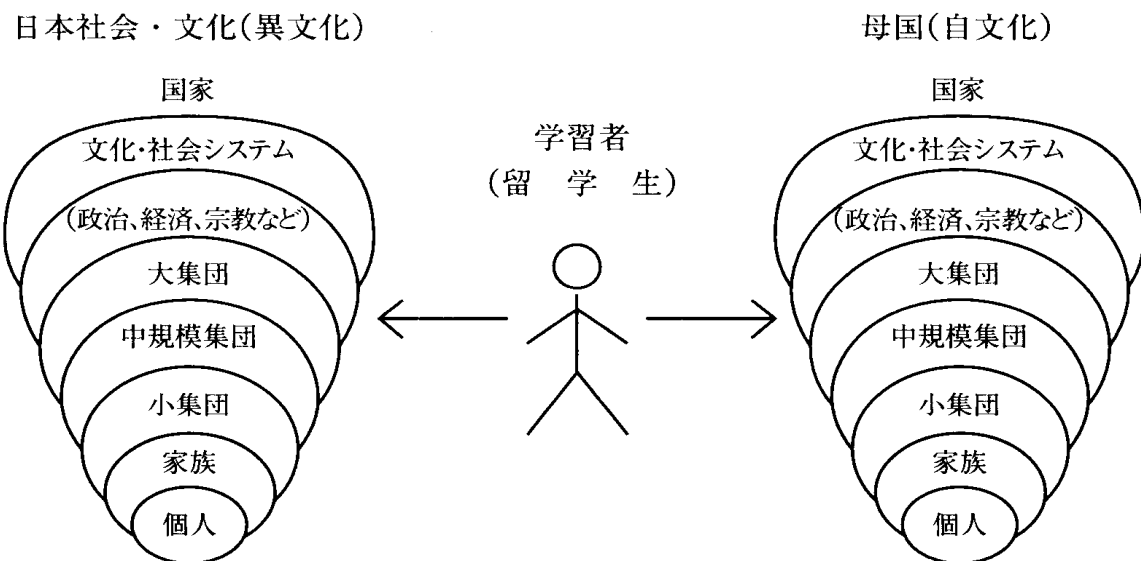
そこで、対象となる学習課題をマクロ的に理解するため、以下の図を示す(図1, 2)。

講座の研究方法には、社会人類学的アプローチを主眼に据え、広義の研究課題は社会・文化・人間心理を学際的な課題とする。社会人類学の視点を重視するのは、日本人の社会行動を日本社会システムと日本人の伝統的思考・行動様式との深い関わりにおいて研究するところにある。戦後の

図 1: 日本人の社会行動—思考・行動の文化様式 (重要視点と関連学問分野)

- | | |
|--------------|--|
| 1. 歴史的視点: | 過去、現在、未来 |
| 2. ライフサイクル: | 生、老、病、死 |
| 3. 社会的属性: | 男女差、年齢差、社会的立場の相違 |
| 4. 社会言語的要素: | 状況判断(公的・私的)、言語・非言語行動、表現構造(丁寧、謙譲、婉曲、抽象・具象、漢語・大和言葉・外来語など) |
| 5. 文化の三層構造: | 表層文化(物質)、中間層(人間活動)、基層文化(精神世界) |
| 6. 重要分析概念: | 上下関係、建前と本音、表と裏、内と外、貸借・贈答関係など |
| 7. 関連する学問分野: | 人類学(文化、社会、心理、医療)、比較文化(文化心理、カウンセリング心理学、異文化コミュニケーション)、社会学(社会、家族、集団、社会心理、制度、都市、病理、犯罪、人種、宗教など)、社会心理(個人と集団の社会行動、世論、マスコミ、その他多くの社会学と共通するテーマ)、歴史学(日本史、近・現代史)、言語学(心理、社会、比較言語文化など)、政治学(現代日本社会に関するテーマ)、経済学(現代日本社会に関するテーマ) |

図 2: 日本人の社会行動—思考・行動の文化様式 (マクロの視点)



日本社会は、目まぐるしい社会変化を経験してきている。そのプロセスの中で、「現代日本人の意識構造」が日常生活文化の中でどのように顕在化されているかを、各概念(上下関係、建前と本音、表と裏、贈答・貸借関係など)を用いて分析・研究する。それは、これらの概念が、現実の日本社会の中で、文化心理・社会心理の形成に重要な関わりが有ると考えられるからである。また社会人類学に重点を置く理由は、筆者が国際学会であるJAWS (Japan Anthropology Workshop) に所属し、学会の研究方法与内容が、このテーマの日本研究に対して現状では非常に重要で有効であるとの認識による。JAWS の学会ではヨーロッパ、オセアニア、アメリカ、アジア、日本を中心とした社会人類学を専門とする日本研究者が活躍している。

研究課題を学際的に追求する必要性は、筆者の異文化との関わりと教育的背景にもよる。すなわち、日米の大学で経済学、社会学(学部)そしてカウンセリング心理学、比較文化研究(大学院)を学習したことから、つぎの視点が重要であると考えている。

異文化を学習する者は、母国と異文化との間に立つマージナルな存在であり、自己に内在化された自文化の思考・行動様式と異文化への適応過程から、新たな文化的思考・行動様式を学習する。このプロセスの中で、留学生は異文化学習を行いつつ、同時に自己の再発見、他者理解への新たな異文化的視点、そして、文化比較により自文化の再認識・再理解を深めて行くものと考えられる。この4つの枠組みは、広い意味の異・他文化学習においては、常に学習者に要求される学習プロセスであろう。異文化学習において筆者がもっとも重要と考えている、この4つの準拠概念の意味は以下の如くである。

- (1) 自己理解 — 留学生は、自分自身のパーソナリティーと価値観に対する深い理解と洞察が必要である。異文化に対する見方や理解は、学習者の個性や価値観によって大きく影響されるため、学習者自身が自己の心理面に対する理解が必要であり、異文化への適応行動が要求される。

- (2) 他者理解 — 留学生は一般的な意味の自己と他者との人間関係のあり方に対して、バランスの取れた価値観や行動パターンを理解することが重要である。異文化に身を置く留学生は、母国における人間関係のあり方に対する洞察と共に、日本社会における人間関係のあり方を「内と外の二重の立場」で学習しなければならない。たとえば実際の教育現場においては、留学生と教師との望ましい関係に対する理解が必要であり、特に多文化的状況のクラスでは学習者間、学習者と教師との人間関係における異文化理解の視点は重要である。
- (3) 自文化理解 — 留学生は、異文化学習において、まず自国の社会と文化に対する深い理解が必要である。その理由は自文化に対する理解の度合いによって、異文化への理解力と問題意識が異なってくるからである。必要な自文化理解の程度とは、自国の歴史、経済、政治、宗教、教育など広範な自国の文化・社会に対する「一般常識」あるいは「教養」を自分自身が包含していることである。
- (4) 異文化理解 — 留学生にとっての日本研究は、まさに異文化理解のための学習である。教育における国際交流の目的は、グローバリゼーションの進展と共に市民レベルでの多文化理解・共生が年々切実な国際的課題となり、その意味でも、留学生の日本研究は多文化理解のために非常に有効な知的・体験的学習の機会となる。様々な偏見から解放され、選択の余地のない「共生への知恵」を異文化理解の学習によって学ぶことが最重要課題と思われる。

この4つの枠組みを研究するには、次の学問的アプローチが必要になると考えられる。

自己理解 — 心理学的アプローチ

他者理解 — 心理学(文化、カウンセリング) / 社会心理学

自文化理解 — 歴史(学) / 社会学 / 人類学(文化、社会、心理、医療)

3. 教材作り

現実の社会に生起する多面的な社会現象を適切に絞り込み、かつ最も効果的に教えられる教材とは、どのようなものであろうか。筆者が担当する講座に限って言えば、まず初めに考察しなければならないことは、留学生の日本語能力の問題と日本研究に関する限られた学習経験が挙げられる。それに応じて教材、資料、文献を選択・準備するわけである。本学の留学生は、欧米先進国の重点大学で高度なレベルで日本研究を専攻する学生ではない。しかしながら、現代日本社会に対する観察には鋭いものがあり、彼らが納得する内容の教材作りは容易でない。いずれにしても、現代日本社会の実態を出来るだけ幅広く、深く理解させるような内容が非常に重要である。

絞り込みの第一段階としては、まず日本社会に関する重要テーマの抽出が必要である。日本社会の生活実態を知るには、社会学的なアプローチが重要である。そこで社会的分類を参考にし、その中から留学生が特に興味と関心を持つ課題を考える。1998年の世界社会学会(ISA)の資料によれば、主要研究テーマは以下の約50の分野が明示されている。

軍組織、経済社会、コミュニティー、教育、人類、マイノリティー、家族、高齢化、レジャー、コミュニケーション、文化、医療・福祉、組織論、政治、貧困・社会福祉・社会政策、地方と都市、科学技術、宗教、環境、社会言語、スポーツ、社会成層、逸脱行動、職業、移民・移住、女性、若者、疎外、芸術、災害、伝記、農業、人口、社会心理、住居と環境、労働運動、社会病理、階層、集団行動と社会変化、精神衛生と病理、国際観光

次に、2001年度の『社会学の基礎知識』(有斐閣)には、社会学の全構成・全分野にわたって450の課題がリストされている。この中で日本社会の構造を考えるには、次の7つのテーマが重要であると考えられる。社会構造と変動、家族、農村と都市、経営と労働、社会心理、マスコミュニケーション、社会福祉と社会問題である。筆者のこれまでの教育経験では、家族問題、教育問題、女性の社会的立場、会社文化、人権問題、集団意識と

行動などは留学生の関心領域として注目されるテーマである。

次に必要な絞り込みは、現実の日本社会に生起する「生きた学習テーマ」の提示である。それは、学習者の関心を引き付ける事象である。教材作成上、留学生の知的興味と関心を知るとは非常に重要であり、かりに担当教師が独断的で一方的な講義を行い、学習者の興味と学習意欲を失うことがあれば、その講義はもはや教育効果を持ち得なくなるであろう。また、留学生の立場から考えると、留学期間が限られ、多様な日本人と出会う機会が限られているため、現実の日本人の生活実態の多様性を知りうる教材が必要である。その意味で筆者が利用しているのは、ジョナサン・ラウシの著書『ジ・アウトネーション：日本人の魂を探して』(Rauch, Jonathan (1992). *The Outnation: A Search for the Soul of Japan*. Boston: Harvard Business School) である。

この本の著者は1990年に来日し、約半年間日本全国を精力的に回り、多くの日本人と出会い日本の社会問題を多面的に捉え、現代日本社会・日本人の在り方を紹介した。著者はアメリカ人ジャーナリストで、本来は政治・経済分野が専門であるため、内容的には専門学術書となっていないが、留学生にとって、この本は「日常生活文化」として生起する日本の社会問題と日本人の多様な生活実態を文化心理的な角度から学ぶには有効な参考文献であると考えられる。この著書は2章、180ページから成るが、授業では前半の1章を参考文献として利用している。そこで取り上げられた、主な項目を次に紹介する。

日本研究者、個人と集団行動、大和流、現人神、単一性と同質性、日本親派と日本叩き派、系列、日本の社会システム、外人嫌い、紹介システム、クリスマス・ケーキ、お見合い、救世主としてのアメリカ人、サラリーマン生活、家の概念、ライフサイクルと住宅事情、日本の都市、都市計画、中流意識、サラリーマンの建前と本音、犯罪と安全性、美的感覚、人種問題、日本語の社会心理的特性、私的關係による封建制、日本人と日本の社会システムの差、同質性の謎、われわれ日本人、軋轢調整と3つの異なる社会制度、抑圧の行動、出る釘は打たれる、

しょうがない症候群、公害と水俣病、社会的信用、校則、第二の国家的嘘、日本的権力構造の謎、野球とチームワーク、経済システム、社会システムとリベラルな要素、集団主義の論理、忠誠心、差別と偏見、アスパラガスの缶詰、無責任システム、インサイダー天国、一番クラブ、菊と刀、でも・しかし論理、日米構造調整、巨象をなでる

次に考えなければならないことは、これら日本社会の多様な生活実態を分析するための概念(コンセプト)の問題である。そのための資料として、Finkelstein, B., Imamura, A. E., & Tobin, J. J. (Eds.). (1991). *Transcending Stereotypes*. Maine: Intercultural Press を利用している。

この著書の1章には日本人にとって重要な社会的通念が紹介されている。すなわち、それらは「公と私」「上と下」「建前と本音」「表と裏」「貸借・贈答関係」である。日本社会におけるこのような社会通念が、日本人の思考と行動における行動規範(Guiding Principle)として人々にどのような文化的強制力(Cultural Enforcement)を与えるのか、そしてもう一つの準拠概念としての「社会的属性」に対する日本人の思考が、同様な文化的強制力を人々に与えるのかを理解することは、日本人の思考・行動様式を解明するためには重要な鍵となると考える。なお、社会的属性とは、男女の差、年齢の差、社会的立場の差などである。

4. 参考文献

充実した参考文献の準備は、研究上最も重要であるが、本学図書館には筆者の講座にとって最低限必要な英文参考資料が「指定図書」として準備されている。また筆者が個人的に蒐集した参考文献も相当数ある。文献リストは後掲のシラバスに含めたが、ここでは、参考文献のなかでもっとも重要と思われる資料を紹介する。それは1993年に編纂された『英文日本大辞典』(Reischauer, E. O., & Kato, I. (Eds.). (1993). *Japan: An Illustrated Encyclopedia*. Kodansha)であり、2000ページからなる日本紹介の英文総合案内である。辞典編纂に関わった内外の学者は1400名に及ぶ。内容は7分野からなり全体の記事は11000の項目が網羅されている。筆者は、この

膨大な資料の中から3分野(社会、文化、日常生活)に注目し、関連する250項目を抽出した。これらの情報は、留学生の研究上非常に有用な資料であり、以下にその項目を例示する。

(a) 家族関係・構造に関する項目:

Abortion, Adoption, Ancestor worship, Children's day, Child welfare, Child welfare law, Common law marriage, Consanguinity, Divorce, Equal employment opportunity law for men and women, Equality of the sexes under the law, Equal opportunity in education, Eugenic protection law, Family, Family court, Family planning, Household expenditures, Household registers, Housewives, Modern housing, Housing problem, *Ie*, *Kato Shizue*, Kinship, *Ko*, Life cycle, Marriage, Marriage law, *Mukoirikon*, *Nakodo*, Naturalization, Neighborhood association, *Nenchu gyouji*, Nuclear family, Nursing homes, *Oku Mumeo*, Ombu, Parental power, Legal definition of parent and child, Parenticide, Paternalism, Pension, Preschool education, Primogeniture, Public assistance, Margaret Sanger, Japan's corporate warriors: A dying breed

(b) 教育問題:

Achievement, Bullying, Central council for education, Childhood and child rearing, Children's day, Child welfare, Child welfare law, Community education, Culture center, History of education, Education, Order of education, Education system reform, Imperial rescript on education, Middle school

(c) 日本社会に関する項目:

Aging population, *Batsu*, *Burakumin*, Bureaucracy, *Bushido*, Citizen's movement, Protection of civil liberties, Comic magazines, The Manga kingdom, Community, Company housing, Conciliation, Conflict resolution, Court ranks, Crime, Criminal investigation, Criminal law, Criminal procedure, Culture center, Disease, Drug, Drug abuse, Emi-

gration, Principal Destinations of Japanese emigrants, 1868–1941, Emperor, Foreigners in Japan, Legal status of foreigners, Foreign workers, Freedom and people's rights movements, Freedom of assembly, Freedom of association, Freedom of contract, Freedom of information system, Freedom of religious faith, Regulation of freedom of speech, *Gakubatsu*, *Gakureki Shakai*, Gambling, Games, Genealogy, Gift giving, Groups, *Gumbatsu*, *Hanbatsu*, *Iemoto*, Inns, Selected indicators of Japan's foreign relations, Japanese Americans, Japanese nationals residing abroad, Japanese studies abroad, *Juku*, Juvenile crime, *Keibatsu*, *Kodan Jutaku*, *Kumi*, Land problem, Life cycle, Magazines, *Manga*, Mass communications, Minority groups, *Misogi*, Museums, Neighborhood associations

(d) 政治関係:

Administrative guidance, *Dajokan* (Grand council of state), Democracy, Deregulations, Diet, Elections, Executive branch of the government, Judicial system, Local government, Nationalism.

5. 授業運営

これまで授業計画に必要な教材と参考文献について詳述したが、それを最終的に絞り込んだものがシラバスである(詳細は末尾のシラバス参照)。その構成は、主教材として前述の *The Outnation* と *Transcending Stereotypes* を使用し、加えて留学生が日々観察する日本人の日常生活に対する疑問や興味を「Weekly Cultural Observation」として記述させ、それを毎週の授業で議論し解答を与える。主教材で取り上げられるテーマは、様々な情報源や参考文献によって、より深い調査・研究を行い、学期末には関心あるテーマを選ばせて論文(Term-Paper)を提出させる。留学生の論文作成に関しては、筆者が個別相談と指導を行う。

授業運営上の注意点として、次のことがあげられる。すなわち、授業の成否は、受講生(態度・性格・学力・語学力・学習能力・文化背景・授業への期待度など)と、担当教師の教育能力とのダイナミックな相互関係により

決定される。そこでは、一人一人の授業参加態度が学習成果の鍵となる。留学生にとって、日本人と日本社会について学習することは、彼らの学習目的の中でも重要なテーマであり、それだけに学習教材の内容と教授法は厳しく問われる。殊に、アメリカからの留学生にはその傾向が強い。筆者自身も学生による授業評価をこの14年間行ってきたが、それは留学生の学習満足度を計り、担当教師の教育能力と教育内容を、不断に改善するために重要な手段である。因みに、筆者が使用している評価表は18項目あり、5段階評価である。

III. 結び

これまで担当講座の授業内容と教授法について述べてきたが、結びとして、筆者自身が教育上直面する困難な課題をいくつか記述したい。まず第一に言葉の問題である。例えば、建前と本音は英語ではどのように表現すべきであろうか。訳語として考えられるのは、Manifest vs. Latent, Obvious vs. Hidden, Overt vs. Covertなどが考えられる。しかしながら、英語に直訳しても、文化的コンテキストと語感のずれや違和感はぬぐえない。第二に、日本人としての常識は、往々にして留学生には期待できない。われわれが慣れ親しんでいる日本社会と文化に関する一般常識としての知識と情報量は、通常留学生のそれと比べて比較にならないほど多い。そのため、課題の理解に大変手間の掛かる説明を要することがあり、説明には事柄の背景から始まって明瞭で論理的で要領の良い説明能力が要求される。第三に、最新の社会現象や事象が話題になった時、その事象にかんする最新情報は英語では同時に得られないことが多い。またその情報の翻訳には時間と労力がかかる。第四に、留学生にとって日本は異文化であり、自国との比較は意識的・無意識的に行われる。その際、自文化中心主義(Ethnocentrism)の見方に偏る場合があり、なかなか汎文化的な立場(Ethnorelative Views)から、日本文化・社会を見ることが出来ない傾向がある。このことは、留学生と教師の両者に起きうる問題でもある。

これに対して、日本人教師が学ぶことも多々ある。第一に、日本文化と社会に対して長期的かつ不断に研究を行うことは、自文化理解がライフ

ワークとなり得る。第二に、日本文化と社会への洞察により、他・異文化に対する有効な視点を持ちうる。第三に、外国語と外国人の視点から日本文化と社会を観察することが出来る。第四には、留学生との交流により、異文化の人々との付き合い方を学び、共生の意味とその重要性を深く認識する機会が得られる。

〈付属資料: シラバス〉

Japanese Society: Japanese Social Behavior

Nagoya Gakuin University

Institute for Japanese Studies

Fall, 2001

Prof. KOMATSU, Teruyuki
(小松照幸)

Course Outline

The comprehensive study of the Japanese social and cultural patterns will require a complex interdisciplinary approach from such areas as psychology, cultural anthropology, sociology, social-psychology and other related sciences. Taking the above consideration, this course places main focus on Japanese people's ways of thinking and behavior. Besides the theoretical learning, students are expected to acquire first-hand cultural observation as much as possible, and take every opportunity to immerse the self into various "social situations" and meet people in Japan. The experiential learning definitely enhances the students' knowledge and insight into Japanese people and culture.

Three key issues for learning are as follows:

1. To learn key concepts and ideas which are important ingredients for understanding the intricate relationship between Japan's social system and people's social behavior.
2. To expose yourself as much as possible in various social situations to observe characteristic aspects of Japanese ways

of thinking and behavior. Also, objectively observe your own behavior and gain insight into the steady process of adjustment and acculturation into the Japanese society.

3. By reading *The Outnation* written by Jonathan Rauch, organize your independent thinking and acquire constructive criticism on the Japanese people and society. Also acknowledge the importance of ethnorelative views for cross-cultural comparison.

Class Schedule

Note: The required weekly readings to be completed before class meets. An asterisk mark '*' indicates an assignment for a report paper.

1-1. Self-introduction.

What can you tell us about Japanese culture and society?

What are the most interesting subjects you wish to learn and research?

How do you approach to the study of Japanese social behavior?

Outline of the course work.

1-2. Introduction to the Japanese Society.

Meaning of interdisciplinary approach to the Japanese social behavior. Explanation on textbooks and resource materials.

Textbooks:

(1) *The Outnation*, (2) *Transcending Stereotypes*, (3) *Japanese Ways of Thinking*, (4) *Kodansha's Japan*, and (5) *Introduction to Japanese Society*.

2. Learning analytical views and perspectives on the subject.

Discussion on several key concepts/ideas from *Transcending Stereotypes*. (40 pages)

(1) Giving and Receiving, (2) *Tatemae* and *Honne*, (3) *Omote* and *Ura*, (4) Up and Down, and (5) Inside and Outside

3. Continuation of the discussion on the above theme.
4. Learning key issues from *An English Dictionary of Japanese Ways of Thinking*. (60 pages)
Discussion on selected topics from the textbook. Major issues are as follows:
(1) Views on nature and culture, (2) Society, (3) Interpersonal relationship (social psychology), (4) Idea of self, (5) Customs and manners, (6) Expressions on feelings and emotion
5. Continuation of the discussion on the above theme.
Students need to review textbook 1 & 2, and prepare to submit the first two-page report paper on Outnation 1.
- *6. The Outnation 1. (Foreword No. 16)
Brief overview of the Japanology studies, Meaning of individual and collective behavior, Coziness, *Yamato ways*, Emperor-God, Singularity, and homogeneity, Japan handlers vs. Japan bashers, and *Keiretsu*.
7. Continued discussion on #1.
- *8. The Outnation 2. (No. 17–25)
Japanese social system, Xenophobia, Introduction-only, Christmas cake, *Omiai*, American crusaders, Salaryman's life, Concept of *Ie*, and Housing situation which affect peoples life cycle.
9. Continued Discussion on #2.
- *10. The Outnation 3. (No. 26–40)
Tokyo, City planning, Middle class consciousness, Salaryman's Tatemaie and Honne, City's safety, Media perceptions, Virtue and endurance, *Kasoka gensho*, Social time scales, Efficiency, Perfection and concentration, Sense of beauty, and Ethnic issues.
11. The Outnation 4. (No. 41–49)
Japanese language and its psycho-social characteristics, Feudal system based on personal relationships, Distinction between people and social institutions, National lie, Myth of homogene-

ity, *Wareware nihonjin* (we Japanese), and Three social systems for managing conflict.

12. Last Class: Wrap-up session.

Assignment

1. **Reading Assignment:** Students are required to read textbooks. The main textbook is *The Outnation* and the other three are resource materials to deepen the understanding of the key issues raised in the main textbook.
2. **Class Discussion:** Class discussion is an essential part of learning in this class. For an effective contribution in the class discussion, you must read textbooks, research in the library, watch various media for news, read newspapers, meet with various people, and summarize your weekly cultural/social observations.
3. **Weekly Cultural/Social Observation:** Each week, please bring one to two questions on Japanese social behavior you have observed, and wish to clarify/discuss the cultural cues behind it. Your choice of subject(s) should have keen relationship to the Japanese people and society with the particular emphasis on their ways of thinking and behavior.
4. **Report Paper:** Students are required to submit three report papers on the main textbook *The Outnation* as indicated with the asterisk marks '*'. Requirements are;
 - (1) From each assigned section, select two most interesting issues/subjects you like to write about. First, interpret the subject, then discuss and summarize your opinion. Questions are also welcomed.
 - (2) Write minimum of two pages, double spaced, and use A × 4 size paper.
 - (3) Delay of the report paper will not be accepted for grading.
5. **Term Paper:** A minimum of seven pages with 10 reference

materials, i.e., books and journal articles. Use A × 4 size paper with double space.

- (1) Deadline: December 9 (Thurs.) 1999
- (2) A research topic must be consulted with the instructor before writing. (Early consultation is welcomed.)
- (3) Begin your research early and submit an outline of your research topic latest by November 11 (Thurs.)

Evaluation

1. Grading is based on the following criteria.
 - 20%: Effective participation in the class discussion.
 - 20%: Three report papers on The Outnation.
 - 60%: Term Paper

Textbooks

1. Rauch, J. (1992). *The outnation: A search for the soul of Japan*. Boston, MA: Harvard Business School Press.
2. Finkelstein, B., Imamura, A., & Tobin, J. (Eds.). (1991). *Transcending stereotypes: Discovering Japanese culture and education*. Main: Intercultural Press.
3. Honna, N., & Hoffer, B. (1991). *An English dictionary of Japanese ways of thinking*. Main: Intercultural Press.
4. Reischaur, E. O., & Kato, I. (Eds.). (1994). *Kodansha: An illustrated picture of Japan*. Tokyo: Kodansha.
5. Sugimoto, Y. (1997). *An introduction to Japanese society*. Cambridge: Cambridge University Press.

List of References

- Benedict, R. (1989). *The chrysanthemum and the sword: Patterns of Japanese culture* (44th ed.). Vermont and Tokyo: Charles E. Tuttle (Original work published in 1946).
- Bowring, R., & Kornicki, P. (Eds.). (1995). *The Cambridge ency-*

- cllopedia of Japan*. London: Cambridge University Press.
- Brannen, C., & Wilen, T. (1993). *Doing business with Japanese men: A women's handbook*. Berkeley, CA: Stone Bridge Press.
- Buckley, S. (1997). *Broken silence: Voices of Japanese feminism*. Berkeley, Los Angeles and London: University of California Press.
- Condon, J. C. (1984). *With respect to the Japanese: A guide for Americans*. ME: Intercultural Press.
- Cummings, W. K. (1980). *Education and Equality in Japan*. Princeton, NJ: Princeton University Press.
- De Mente, B. L. (1993). *Behind the Japanese Bow*. Lincolnwood, IL: Passport Books.
- Doi, T. (1988). *The anatomy of self: The individual versus society*. Tokyo, New York and London: Kodansha International.
- Feimberg, W. (1993). *Japan and the pursuit of a new American identity: Work and education in a multicultural age*. New York and London: Routledge.
- Finkelstein, B., Imamura, A., & Tobin, J. J. (Eds.). (1991). *Transcending stereotypes: Discovering Japanese culture and education*. Yarmouth, ME: Intercultural Press&Education.
- Foreign Press Center (Ed.). (1989). *Facts & figures of Japan*. Tokyo: Foreign Press Center.
- Fukutake, T. (1989). *The Japanese social structure: Its evolution in the modern century*. Tokyo: University of Tokyo Press.
- Honna, N., & Hoffer, B. (1992). *An English dictionary of Japanese ways or thinking* (10th ed.). Tokyo: Yuhikaku.
- Iwao, S. (1993). *The Japanese woman: Traditional image and changing reality*. New York, Oxford, Singapore and Sydney: The Free Press.
- Japan External Trade Organization (JETRO). (1991). *U.S. and Japan in figures I*. Tokyo: JETRO.
- Japan External Trade Organization (JETRO). (1991). *U.S. and*

- Japan in figures II*. Tokyo: JETRO.
- Jecks, C. (1994). *The homeless*. Cambridge, MA and London: Harvard University Press.
- Kaplan, D. E., & Dubro, A. (1986). *Yakuza: The explosive account of Japan's criminal underworld*. Reading, MA. and 11 other cities: Addison-Wesley.
- Lebra, T. S., & Lebra, W. P. (1974). *Japanese culture and behavior: Selected readings*. Honolulu, HI: East-West Center Book, University Press of Hawaii.
- Mason, R.H.P., & Caiger, J. G. (1972). *A history of Japan*. Tokyo: Charles E. Tuttle.
- Matsumoto, D. (1996). *Unmasking Japan: Myths and realities about the emotions of the Japanese*. Stanford, CA: Stanford University Press.
- Ministry of Education, Science and Culture. (Ed.). (1990). *Japanese government policies in education, science and culture: Towards the creation of new structures for higher education*. Tokyo: Gyosei.
- Ministry of Education, Science and Culture. (1994). *Education in Japan*. Tokyo: Gyosei.
- Mishima, Y. (1978). *Yukio Mishima on hagakure: The samurai ethic and modern Japan*. (K. Sparling, Trans.). Tokyo: Charles E. Tuttle.
- Mouer, R., & Sugimoto, Y. (1986). *Images of Japanese society: A study in the social construction of reality*. London and New York: Kegan Paul International.
- Murate, Y. (Ed.). (1996). *Education in Japan: A bilingual test; historical development*. (Written by T. Saito & Y. Ohto) Tokyo: Tsukuba University Press.
- Okimoto, D. I., & Rohlen, T. P. (Eds.). (1988). *Inside the Japanese system: Readings on contemporary society and political economy*. Stanford, CA: Stanford University Press.
- Rauch, J. (1992). *The outnation: A search for the soul of Japan*.

- Boston, MA: Harvard Business School Press.
- Reischauer, E. O. (1982). *The Japanese today: change and continuity* (13th ed.). (Original work in 1977) Tokyo: Charles E. Tuttle.
- Reischauer, E. O. (1984). *Japan: Past and present*. Tokyo: Charles E. Tuttle.
- Reischauer, E. O., & Kato, I. (Eds.). (1993). *Japan: An illustrated encyclopedia*. Tokyo: Kodansha.
- Romano, D. (1988). *Inter-cultural marriage: Promises & pitfalls*. Yarmouth, ME: Intercultural Press.
- Rosenberger, N. R. (Ed.). (1994). *Japanese sense of self*. Cambridge, New York and Melbourne: Cambridge University Press.
- Shelly, R. (1993). *Culture shock!* Oregon: Graphic Arts Center.
- Shin Nihon Seitetsu Co.—Office of Human Development. (1988). *Nippon: The land & its people*. Tokyo: Gakusei-sha.
- Stewart, E., & Bennett, M. J. (1991). *American cultural patterns: A cross-cultural perspective*. Yarmouth, ME: Intercultural Press.
- Ueda, J. (Ed.). (1992). *Asahi Shinbun: Japan almanac 1993*. Tokyo: Asahi Shinbun.
- Umesao, T. (Ed.). (1985). *Seventy-seven keys to the civilization of Japan*. (Producer: The Senri Foundation) Osaka: Sogensha.
- White, M. (1987). *The Japanese educational challenge: A commitment to children*. New York and London: The Free Press.
- White, M. (1993). *The material child: Coming of age in Japan and America*. New York, Oxford, Singapore and Sydney: The Free Press.
- Woronoff, J. (1980). *Japan: the coming social crisis*. Tokyo: Yohan Publications.